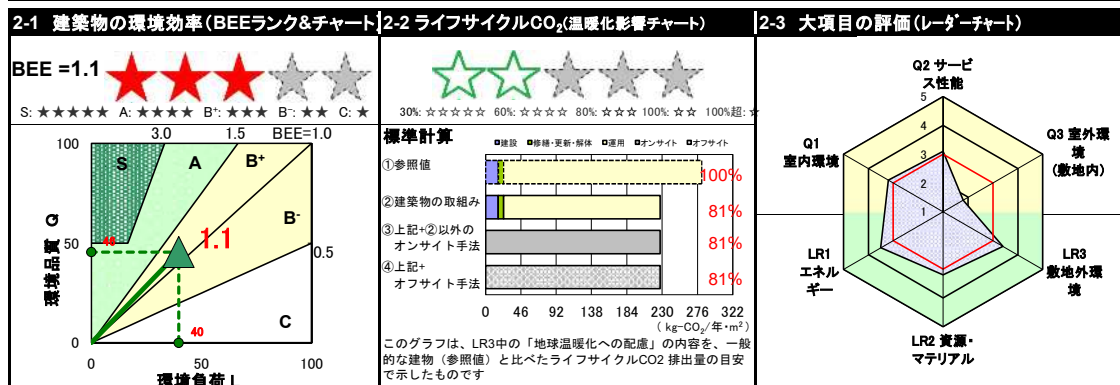
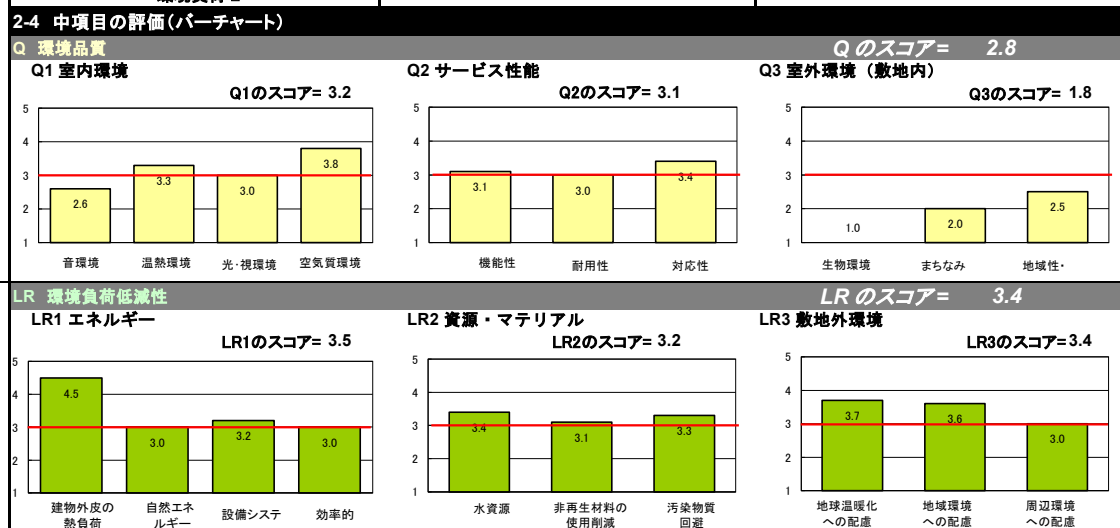


1-1 建物概要			1-2 外観	
建物名称	(仮称)やまのぶ赤池店	階数	地下1階地上1階	
建設地	日産市赤池町東1/5日産市赤池東1/5土地地区開発事業第1224356-1-17-23.9	構造	S造	
用途地域	第一種住居地域	平均居住人員	200 人	
気候区分	6地域	年間使用時間	4,500 時間/年	
建物用途	物販店	評価の段階	竣工段階評価	
竣工時期	2026年10月 予定	評価の実施日	2026年6月25日	
敷地面積	4,960 m ²	作成者	白田 あき子	
建築面積	2,575 m ²	確認日	2026年6月25日	
延床面積	2,826 m ²	確認者	上野山 有一	



3 重点項目		
①地球温暖化への配慮 <p>3.7</p>	③敷地内の緑化 <p>1.0</p>	
	<p>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</p> <p>0.0 %</p> <p>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</p> <p>0.0 %</p>	
②資源の有効活用 <p>3.1</p>	④地域材の活用 <p>1.0</p>	
	<p><外装材に使用した地域性のある材料></p> <p>なし</p> <p><建物の構造材・内装材・外構に使用した地域性のある素材></p> <p>なし</p>	

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮

LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用

Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性

LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化

Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}}$ × 100

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建物によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}}$ × 100



CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き
(仮称)やまのぶ赤池店

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

欄に数値またはコメントを記入

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

スコアシート		竣工段階		環境配慮設計の概要記入欄		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体	
配慮項目		独自基準	重点項目	評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数		
Q 建築物の環境品質										2.8	
Q1 室内環境						0.40			-	3.2	
1 音環境				0.1	2.6	0.15			-	2.6	
1.1 室内騒音レベル				3.0	3.0	0.40			-		
1.2 遮音				0.4	3.0	0.40			-		
1 開口部遮音性能				-	3.0	1.00			-		
2 界壁遮音性能				-	-	-		3.0	-		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				-	-	-		3.0	-		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				-	-	-		3.0	-		
1.3 吸音				-	1.0	0.20		3.0	-		
2 温熱環境				0.3	3.3	0.35			-	3.3	
2.1 室温制御				0.5	3.6	0.50			-		
1 室温				3.0	3.0	0.50		3.0	-		
2 外皮性能				3.0	3.0	0.17		3.0	-		
3 ゾーン別制御性				3.0	5.0	0.33		-	-		
2.2 湿度制御				3.0	3.0	0.20		3.0	-		
2.3 空調方式				3.0	3.0	0.30		3.0	-		
3 光・視環境				0.2	3.0	0.25			-	3.0	
3.1 昼光利用				0.5	3.0	0.50			-		
1 昼光率				3.0	-	-		3.0	-		
2 方位別開口				3.0	-	-		-	-		
3 昼光利用設備				3.0	3.0	1.00		3.0	-		
3.2 グレア対策				-	-	-		-	-		
1 昼光制御				5.0	-	-		3.0	-		
3.3 照度				3.0	-	-		3.0	-		
3.4 照明制御				3.0	3.0	0.50		3.0	-		
4 空気質環境				0.2	3.8	0.25			-	3.8	
4.1 発生源対策				0.5	4.0	0.50			-		
1 化学汚染物質				3.0	4.0	1.00		3.0	-		
4.2 換気				0.3	3.5	0.30			-		
1 換気量				3.0	3.0	0.50		3.0	-		
2 自然換気性能				3.0	-	-		3.0	-		
3 取り入れ外気への配慮				3.0	4.0	0.50		3.0	-		
4.3 運用管理				0.2	4.0	0.20			-		
1 CO ₂ の監視				3.0	3.0	0.50		-	-		
2 喫煙の制御				3.0	5.0	0.50		-	-		
Q2 サービス性能						0.30			-	3.1	
1 機能性				0.4	3.1	0.40			-	3.1	
1.1 機能性・使いやすさ				0.4	3.0	0.40			-		
1 広さ・収納性				3.0	-	-		3.0	-		
2 高度情報通信設備対応				3.0	-	-		3.0	-		
3 バリアフリー計画		独自		3.0	3.0	1.00		-	-		
1.2 心理性・快適性				0.3	3.3	0.30			-		
1 広さ感・景観 (天井高)				3.0	5.0	0.33		3.0	-		
2 リフレッシュスペース				3.0	2.0	0.33		-	-		
3 内装計画				3.0	3.0	0.33		-	-		
1.3 維持管理				0.3	3.0	0.30			-		
1 維持管理に配慮した設計				3.0	3.0	0.50		-	-		
2 維持管理用機能の確保				-	3.0	0.50		-	-		
2 耐用性・信頼性				0.3	3.0	0.31			-	3.0	
2.1 耐震・免震・制震・制振				0.4	3.0	0.48			-		
1 耐震性(建物のこわれにくさ)				3.0	3.0	0.80		-	-		
2 免震・制震・制振性能				3.0	3.0	0.20		-	-		
2.2 部品・部材の耐用年数				0.3	3.0	0.33			-		
1 躯体材料の耐用年数				-	3.0	0.23		-	-		
2 外壁仕上材の補修必要間隔				-	2.0	0.23		-	-		
3 主要内装仕上材の更新必要間隔				-	3.0	0.09		-	-		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				-	3.0	0.08		-	-		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔				-	5.0	0.15		-	-		
6 主要設備機器の更新必要間隔				-	3.0	0.23		-	-		
2.4 信頼性				0.1	3.0	0.19			-		
1 空調・換気設備				3.0	3.0	0.20		-	-		
2 給排水・衛生設備				3.0	3.0	0.20		-	-		
3 電気設備				3.0	3.0	0.20		-	-		
4 機械・配管支持方法				3.0	3.0	0.20		-	-		
5 通信・情報設備				3.0	3.0	0.20		-	-		

3 対応性・更新性				0.2	3.4	0.29	-	-	-	3.4			
3.1 空間のゆとり			②	階高平均3.9m以上 壁長さ比率0.11			0.3	4.6	0.31	-	-	-	
1	階高のゆとり	3.0		5.0	0.60	-	3.0	-	-				
2	空間の形状・自由さ	3.0		4.0	0.40	-	3.0	-	-				
3.2 荷重のゆとり				3.0	3.0	0.31	-	3.0	-	-			
3.3 設備の更新性				0.3	3.0	0.38	-	-	-	-			
1	空調配管の更新性	-		3.0	0.17	-	-	-	-				
2	給排水管の更新性	3.0		3.0	0.17	-	-	-	-				
3	電気配線の更新性	3.0		3.0	0.11	-	-	-	-				
4	通信配線の更新性	3.0		3.0	0.11	-	-	-	-				
5	設備機器の更新性	3.0		3.0	0.22	-	-	-	-				
6	バックアップスペースの確保	3.0	3.0	0.22	-	-	-	-					
Q3 室外環境(敷地内)					-	0.30	-	-	-	1.8			
1 生物環境の保全と創出			独自③	-	1.0	0.30	-	-	-	1.0			
2 まちなみ・景観への配慮			独自④	-	2.0	0.40	-	-	-	2.0			
3 地域性・アメニティへの配慮				0.3	2.5	0.30	-	-	-	2.5			
3.1	地域性への配慮、快適性の向上	独自④	-	3.0	0.50	-	-	-					
3.2	敷地内温熱環境の向上		-	2.0	0.50	-	-	-					
LR 建築物の環境負荷低減性					-	-	-	-	-	3.4			
LR1 エネルギー					-	0.40	-	-	-	3.5			
1 建物外皮の熱負荷抑制			BPI _m =0.85	3.0	4.5	0.30	-	-	-	4.5			
2 自然エネルギー利用				3.0	3.0	0.20	-	-	-	3.0			
3 設備システムの高効率化			BEI _m =0.79	3.0	3.2	0.30	-	-	-	3.2			
4 効率的運用				0.2	3.0	0.20	-	-	-	3.0			
集合住宅以外の評価				1.0	3.0	1.00	-	-	-				
4.1	モニタリング		3.0	3.0	0.50	-	-	-					
4.2	運用管理体制		3.0	3.0	0.50	-	-	-					
集合住宅の評価				-	-	-	-	-	-				
4.1	モニタリング		-	3.0	-	-	-	-	-				
4.2	運用管理体制		-	3.0	-	-	-	-	-				
LR2 資源・マテリアル					-	0.30	-	-	-	3.2			
1 水資源保護				0.1	3.4	0.15	-	-	-	3.4			
1.1 節水			自動水栓、擬音装置を採用している	3.0	4.0	0.40	-	-	-				
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				0.6	3.0	0.60	-	-	-				
1	雨水利用システム導入の有無	3.0		3.0	0.67	-	-	-					
2	雑排水等利用システム導入の有無	3.0		3.0	0.33	-	-	-					
2 非再生性資源の使用量削減				0.6	3.1	0.63	-	-	-	3.1			
2.1 材料使用量の削減			② 独自 再生クラッシャーランRC-40、外部舗装	-	2.0	0.07	-	-	-				
2.2 既存建築躯体等の継続使用				-	3.0	0.25	-	-	-				
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用				-	3.0	0.21	-	-	-				
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用				3.0	3.0	0.21	-	-	-				
2.5 持続可能な森林から産出された木材				3.0	-	-	-	-	-				
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み				3.0	4.0	0.25	-	-	-				
3 汚染物質含有材料の使用回避				0.2	3.3	0.22	-	-	-	3.3			
3.1 有害物質を含まない材料の使用			吹付硬質ウレタンフォームA種1H、フェノールフォーム断熱材1種2の使用	3.0	3.0	0.32	-	-	-				
3.2 フロン・ハロンの回避				0.6	3.5	0.68	-	-	-				
1	消火剤	-		-	-	-	-	-					
2	発泡剤(断熱材等)	-		4.0	0.50	-	-	-					
3	冷媒	3.0		3.0	0.50	-	-	-					
LR3 敷地外環境					-	0.30	-	-	-	3.4			
1 地球温暖化への配慮			①	ライフサイクルCO2排出率81%	-	3.7	0.33	-	-	3.7			
2 地域環境への配慮				0.3	3.6	0.33	-	-	-	3.6			
2.1 大気汚染防止			燃焼設備なし	-	5.0	0.25	-	-	-				
2.2 温熱環境悪化の改善				-	3.0	0.50	-	-	-				
2.3 地域インフラへの負荷抑制				0.2	3.5	0.25	-	-	-				
1	雨水排水負荷低減	独自		-	3.0	0.25	-	-	-				
2	汚水処理負荷抑制		-	3.0	0.25	-	-	-					
3	交通負荷抑制	独自	-	5.0	0.25	-	-	-					
4	廃棄物処理負荷抑制		-	3.0	0.25	-	-	-					
3 周辺環境への配慮				0.3	3.0	0.33	-	-	-	3.0			
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			② 独自 独自	0.4	3.0	0.40	-	-	-				
1	騒音	-		3.0	1.00	-	-	-	-				
2	振動	-		-	-	-	-	-	-				
3	悪臭	-		-	-	-	-	-	-				
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制				0.4	3.0	0.40	-	-	-				
1	風害の抑制	-		3.0	0.70	-	-	-	-				
2	砂塵の抑制	-		3.0	-	-	-	-	-				
3	日照阻害の抑制	-		3.0	0.30	-	-	-	-				
3.3 光害の抑制				0.2	3.0	0.20	-	-	-				
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	-		3.0	0.70	-	-	-	-				
2	屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策	-		3.0	0.30	-	-	-	-				

重点項目スコアシート
【仮称】やまのぶ赤池店

竣工段階

■使用評価マニュアル

CASBEE:建築(新築)2016年版+あいち版手引き

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				3.7
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.7	0.10	3.1
② 資源の有効活用				
Q2-2	耐震性・信頼性	3.0	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.4	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.1	0.19	
③ 敷地内の緑化				1.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.09	外構緑化:0%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用		(評価ポイント)		1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 (仮称)やまのぶ赤池店

計画上の配慮事項	
総合	車両の出入りが円滑に行えるよう、一般車両と管理用車両の出入口はできるだけ離れた位置とした。 建築材料は、JIS・JAS規格のF☆☆☆☆をほぼ全面的に採用。
Q1 室内環境	建物は全館禁煙とし、照明に昼光利用設備を取り入れることで環境負荷低減に配慮。
Q2 サービス性能	売場の天井高さ3.8m・階高を3.9m以上とし建物高にゆとりをもたせる。
Q3 室外環境(敷地内)	建物外部のスペースにおいて、境界に設置するフェンスは見通しの良いものとし防犯性に配慮。
LR1 エネルギー	建築物のエネルギー消費性能の向上に関する法律に適合。
LR2 資源・マテリアル	全面的にLGSの使用。
LR3 敷地外環境	燃焼設備は一切使用していない。 自転車置場、駐車場及び管理用車両の十分な駐車施設を確保。
その他	特になし